

マッチング指標を用いたマッチング状況の分析

労働市場における労働力需給調整を評価するための指標として、就職率や充足率があるが、求人倍率が上昇する時には、就職率が上昇し充足率が低下するなどの動きが見られ、それぞれ単独の利用には注意が必要である。

このレポートは、第 43 号（平成 26 年 10 月 31 日）に続き、就職率と充足率の双方を加味して、労働市場の機能を評価する指標を計測し、マッチング状況の分析を行う。

1. 労働市場全体の就職率と充足率の動向

労働市場における労働力需給調整を評価する一般的な指標として、就職率と充足率がある。就職率は、就職件数を求職者数で除した値であり、求職者の就職状況を示し、ハローワークの求職者サービスの効果を示す側面がある。一方、充足率は、就職件数を求人数で除した値であり、求人の充足状況を示し、ハローワークの求人者サービスの効果を示す側面がある。

一般に求人倍率が上昇するときには、就職率が上昇する一方で、充足率が低下する傾向があり（図 1）、就職率や充足率をそれぞれ単独で用いてマッチング状況の分析を行うことは必ずしも適切ではない。

就職率と充足率を散布図上に描き、その動向を見ると、就職率と充足率によって決まる点が原点から遠ざかりつつ、左上-右下方向を往復する動きが見て取れる（図 2）。ただし、平成 26 年以降は左方向の動きを示しており、それ以前に見られていた、就職率が上がれば（下がれば）充足率が下がる（上がる）代替関係が弱くなっているように見える。

また、同図上の就職率と充足率によって決まる点が原点からどれだけ離れているかを計測し、計測されたその距離の大きさを「マッチング指標」と定義する（図 3）。マッチング指標の推移を計測してみると、景気後退期に底をつきつつ概ね横ばいで推移し、平成 22 年にピークを示して以降は一貫して低下傾向が見られる（図 4）。

これは、充足率の低下幅が就職率の上昇幅を上回っているためであり、新規求人数が大幅に増加している一方で、新規求職申込件数が減少したことにより、就職件数が減少しているためである。

2. 職業別の就職率と充足率の動向

職業別に平成 24 年度から平成 29 年度までの就職率と充足率を見ると（図 5）、すべての職種で充足率の低下が見られる一方で、就職率は「事務的職業」や「生産工程の職業」のように増加している職種と、「管理的職業」や「保安の職業」のように減少している職種がある。マッチング指標については概ね横ばいか減少傾向にある（図 6）。

どの職種においても、平成 24 年度から平成 29 年度にかけて、新規求人数は増加、新規求職申込件数及び就職件数は減少している。就職率が増加した「事務的職業」や「生産工程の職業」では、新規求職申込件数の減少率が就職件数の減少率よりも大きい（図 7）。

このように、新規求職申込件数の減少が職種別の就職率の動向にも影響しているのが、近年の状況である。

なお、今回のレポートでは率に注目をしているため、計算元となる件数の絶対量が小さいと極端な動きを示すことに注意が必要である。

問い合わせ先

職業安定局総務課

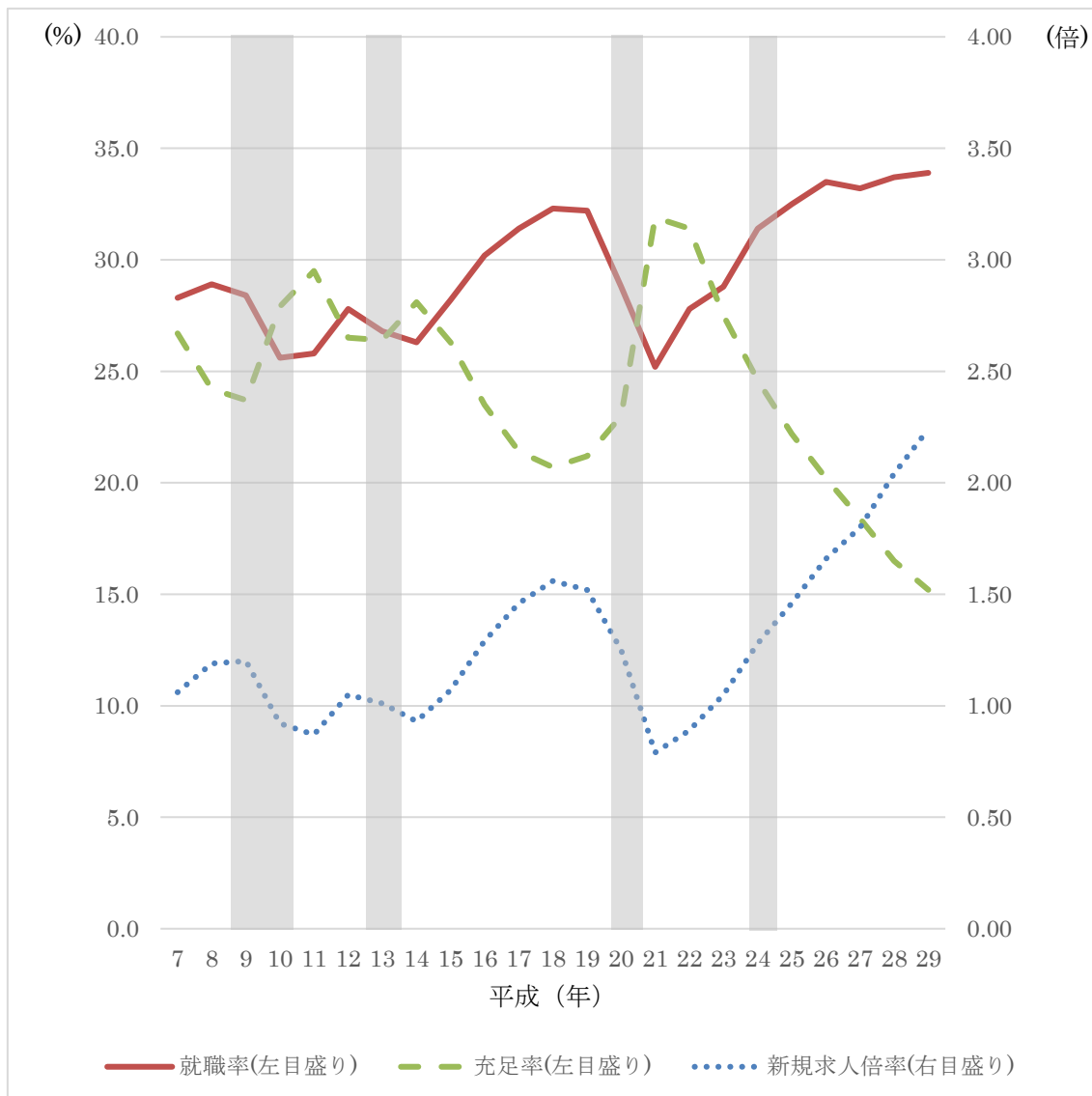
公共職業安定所運営企画室企画係

酒井 孝明

直通：03-3502-2606

※本レポートは、執筆者個人の見解に基づいて作成したものであり、所属組織の公式見解を示すものではない。

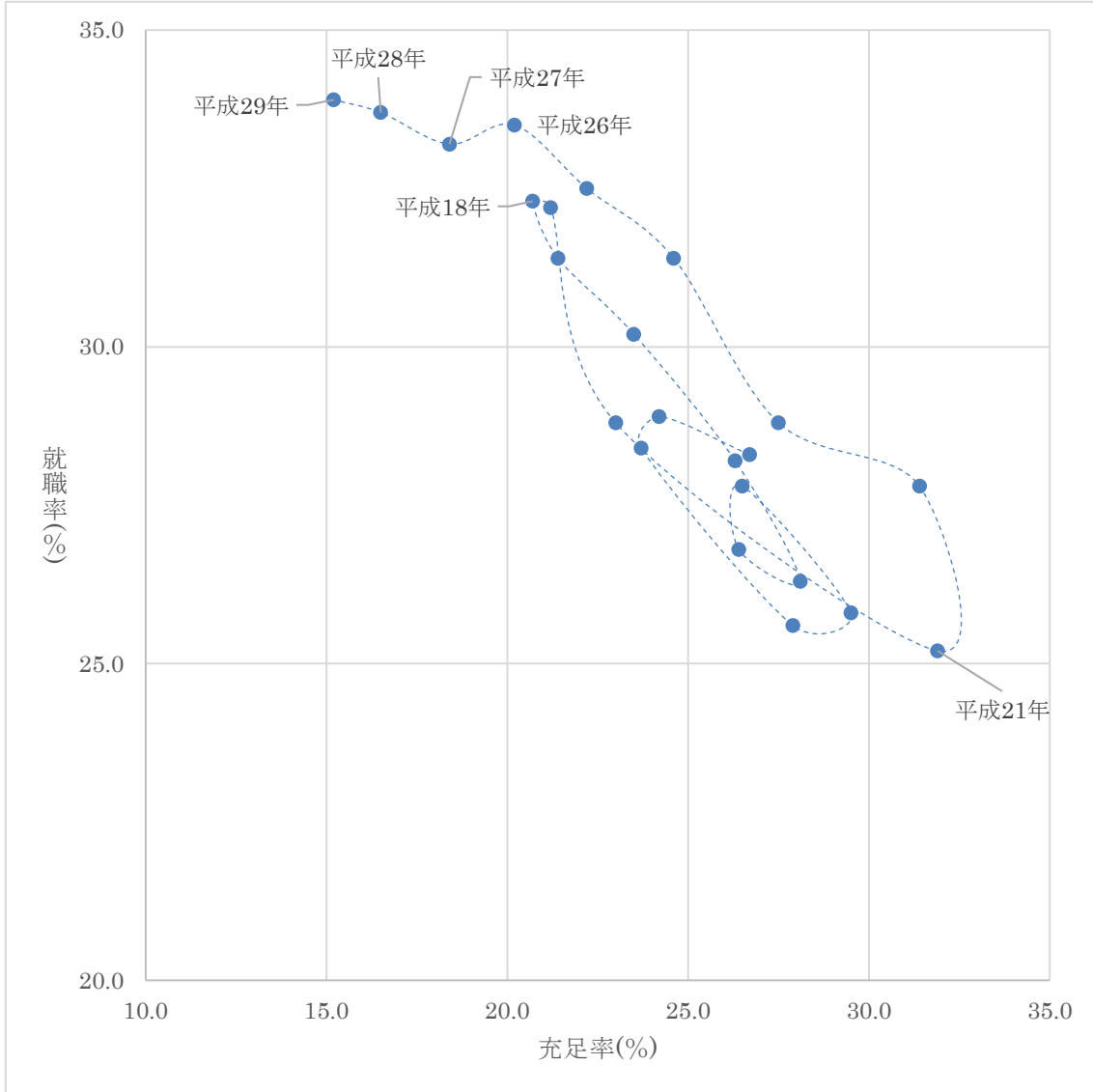
図1 新規求人倍率と就職率、充足率



資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」

- (注) 1) 数値は新規学卒者を除きパートタイムを含む暦年値。
 2) 就職率は就職件数を新規求職申込件数で除した百分率、充足率は就職件数を新規求人数で除した百分率である。
 3) シャドーは景気後退局面を示す。

図2 就職率と充足率の動向



資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」

- (注) 1) 数値は新規学卒者を除きパートタイムを含む暦年値。
2) 就職率は就職件数を新規求職申込件数で除した百分率、充足率は就職件数を新規求人数で除した百分率である。

図3 マッチング指標の考え方

マッチングの程度を示す指標として、横軸に充足率、縦軸に就職率をとった散布図を作成し、その点Pと原点との距離を考える。就職率が一定の場合、充足率が高いほど(原点からの距離が大きいほど)マッチングがうまくいったと言え、充足率が一定の場合、就職率が高いほど(原点からの距離が大きいほど)マッチングがうまくいったと言える。したがって、点Pの原点からの距離が大きいほどマッチングがうまくいっていると考えることができる。

マッチング指標は、点Pと原点0との距離をマッチングの程度を示す指標として用いるものである。充足率と就職率がともに1(100%)の時に、原点からの距離は $\sqrt{2}$ となるので、マッチング指標は原点からの距離を $\sqrt{2}$ で除した値で示すこととする。これにより、充足率と就職率がともに1(100%)の時にマッチング指標は1となる。なお、原点0と点Pを結んだ直線の傾き(b/a)は求人倍率を示す(b/a=(就職件数/新規求職者数)÷(就職件数/新規求人数)=新規求人数÷新規求職者数)。

$$\text{マッチング指標} = \frac{\sqrt{a^2 + b^2}}{\sqrt{2}}$$

(充足率 a は就職件数を新規求職者数で除した値、就職率 b は就職件数を新規求人数で除した値)

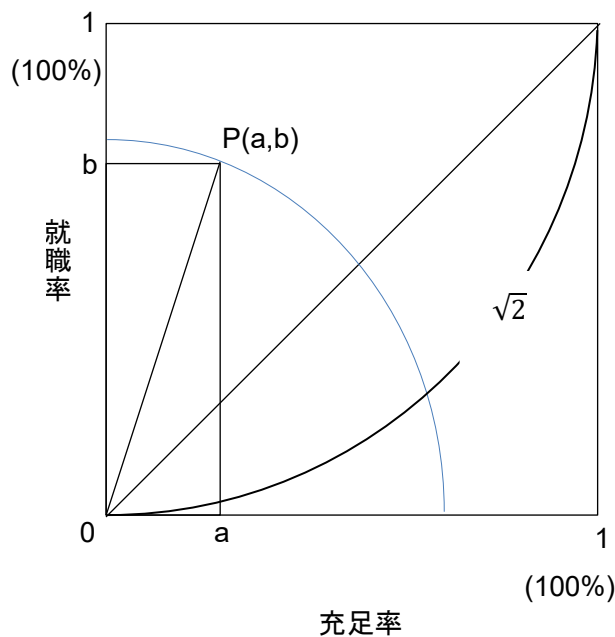
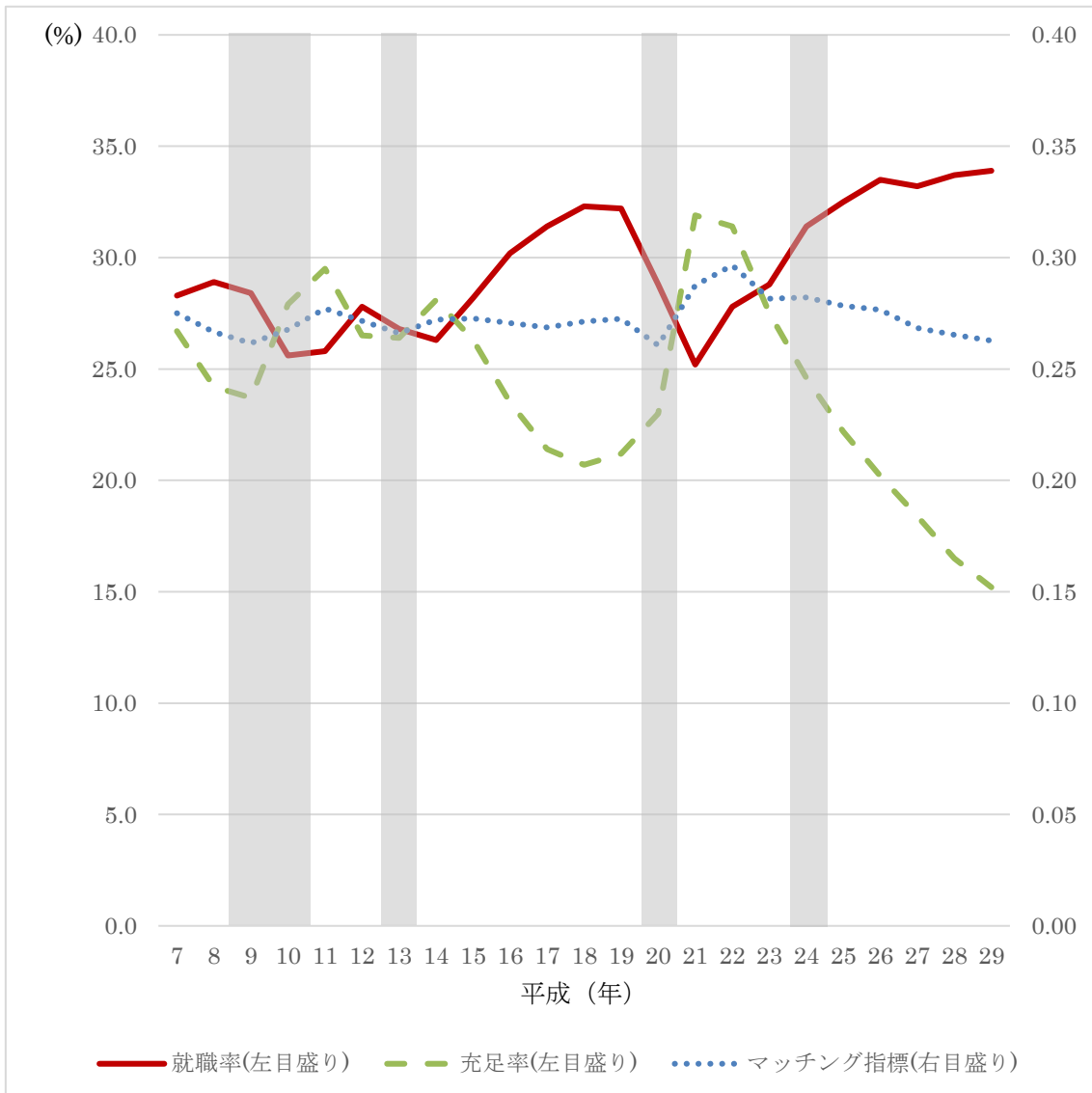


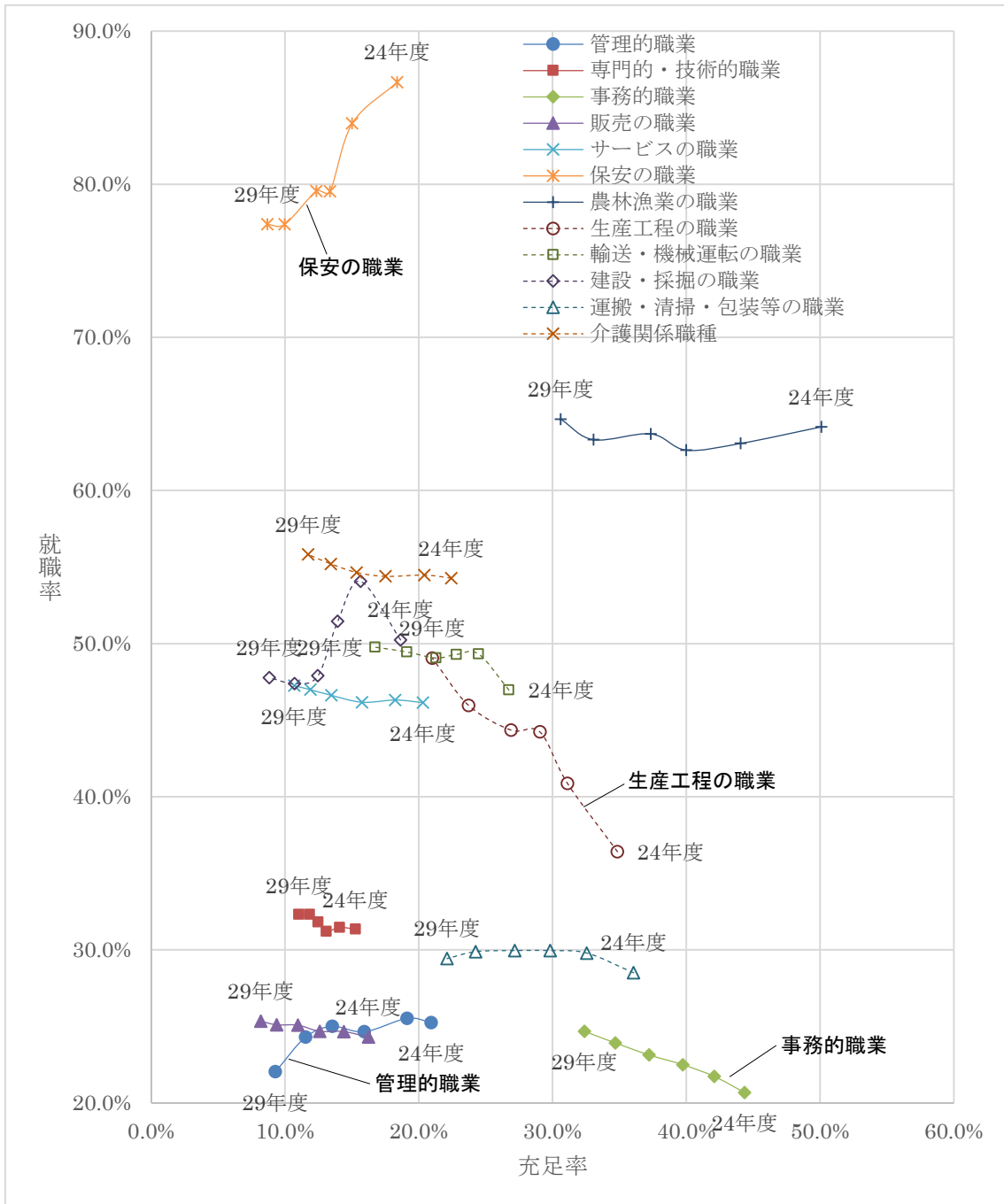
図4 マッチング指標の推移



資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」

- (注) 1) 数値は新規学卒者を除きパートタイムを含む暦年値。
 2) 就職率は就職件数を新規求職申込件数で除した百分率、充足率は就職件数を新規求人数で除した百分率である。
 3) シャドーは景気後退局面を示す。

図5 職業別の就職率と充足率

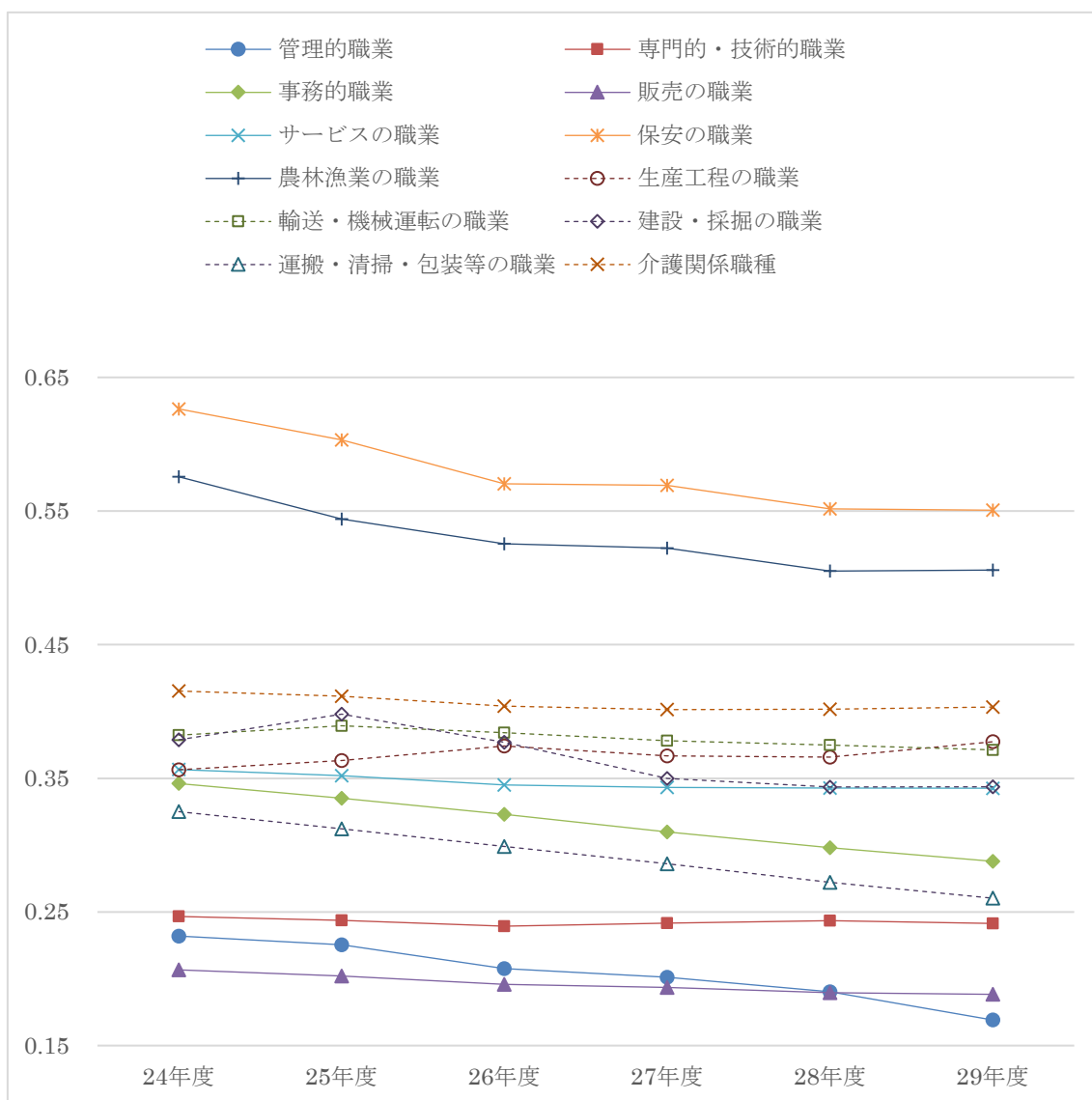


資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」

(注) 1) 数値はパートタイムを含む常用の年度計である。

2) 職業分類は厚生労働省編職業分類（平成23年改定）による。

図6 職業別マッチング指標の推移



資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」

(注) 1) 数値はパートタイムを含む常用の年度計である。

2) 職業分類は厚生労働省編職業分類（平成23年改定）による。

図7 職業別新規求職件数と就職件数の推移

	新規求職申込件数			就職件数		
	24年度計	29年度計	減少率 (※)	24年度計	29年度計	減少率 (※)
管理的職業	19,533	19,284	1.3%	4,932	4,251	13.8%
専門的・技術的職業	836,816	677,122	19.1%	262,433	218,839	16.6%
事務的職業	1,794,572	1,404,128	21.8%	371,111	346,595	6.6%
販売の職業	717,634	390,259	45.6%	174,387	98,903	43.3%
サービスの職業	786,244	574,304	27.0%	362,861	271,398	25.2%
保安の職業	49,574	34,618	30.2%	42,961	26,788	37.6%
農林漁業の職業	45,340	35,467	21.8%	29,089	22,931	21.2%
生産工程の職業	685,622	446,080	34.9%	249,641	218,829	12.3%
輸送・機械運転の職業	256,554	182,871	28.7%	120,505	91,011	24.5%
建設・採掘の職業	131,035	80,427	38.6%	65,832	38,425	41.6%
運搬・清掃・包装等の職業	884,315	746,235	15.6%	252,066	219,635	12.9%
介護関係職種	317,673	243,353	23.4%	172,428	135,833	21.2%

※減少率＝（24年度計の件数－29年度計の件数）÷24年度計の件数

資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」

（注）1）数値はパートタイムを含む常用の年度計である。

2）職業分類は厚生労働省編職業分類（平成23年改定）による。